

岩手県金融経済概況（2018年7～8月）

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少傾向にある。住宅投資は持ち直している。設備投資は増加傾向を維持している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、20ヵ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2018年7月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比 Δ 4.5%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2018年7月）は、2ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.0%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2018年8月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（前年比 Δ 1.0%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2018年8月）は、9ヵ月連続で前年を下回った（前年比 Δ 5.2%）。

新設住宅着工戸数（2018年7月）は、5ヵ月連続で前年を上回った（前年

比+12.9%)。

—— 持家（前年比+4.8%）は2ヵ月振りに、貸家（同+27.2%）は5ヵ月連続で前年を上回った。一方、分譲（同△11.1%）は3ヵ月連続で前年を下回った。

民間設備投資（短観ベース；2017年度実績、2018年度計画）は、2017年度実績（前年比△2.0%）、2018年度計画（同△3.1%）ともに前年を若干下回っている。

—— 2017年度（実績）は、製造業は概ね前年並みとなった一方、非製造業の一部で計画の後ずれがみられたことなどから、全産業では前年を若干下回った。

—— 2018年度（計画）は、製造業が新製品対応投資等により前年を1割方上回る一方で、非製造業は既往の投資一服等から前年を2割方下回る計画となっており、全産業では前年を若干下回る計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2018年7月）は、7ヵ月連続で前年を下回った（前年比△1.8%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2018年6月）は、3ヵ月振りに前月を下回った（前月比△4.6%）。

—— 主要業種別にみると、化学、鉄鋼、印刷が上昇し、生産用機械、輸送機械、窯業・土石製品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2018/4～6月は2期振りに前期比増となった（2017/7～9月：前期比△2.5%、10～12月：同+3.3%、2018/1～3月：同△4.8%、4～6月：同+5.9%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2018年7月）は、1.43倍と高水準を維持している（2013年5月以降63ヵ月連続で1.00倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2018年7月）は、前年を上

回った（前年比+0.4%；2012年3月以降77ヵ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；2018年6月）は、名目賃金指数（前年比+2.7%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△3.9%）が前年を下回ったため、6ヵ月連続で前年を下回った（同△1.2%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2018年8月）は、光熱・水道および交通・通信の上昇等を主因に20ヵ月連続で前年を上回った（前年比+1.3%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2018年8月）は、4件、228百万円（前年同月；9件、1,127百万円）と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2018年7月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>